

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年12月25日

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	C		
横断的な課題	地域防災力・減災力の強化						
地域重点政策	3 地域防災力・減災力の強化					木曽地域振興局	
実施機関	木曽保健福祉事務所			担当課	所属	木曽保健福祉事務所 総務課	
事業名	木曽地区災害時医療救護訓練				電話	0264-25-2231	
					E-mail	kisocho-somu@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	災害時に迅速・確実な医療を提供できるよう医療救護訓練を実施することにより、木曽地域の防災力・減災力を高めることを目的とする。					
	現状と課題	○R5年度訓練実施後アンケート及び所の防災体制を踏まえた現状 ①各組織の動きや役割を知り、他機関との連携を強化することが重要 ②情報共有の流れや具体的方策について確認することが重要 ③防災物品が不足しており、耐用年数が過ぎた物品の更新も必要 ○R6年度訓練を通じて取組むべき課題 ①各組織の連携を強化するため、災害時における他機関の動きを確認する機会が必要 ②実際の大災害時は、保健所職員が木曽病院や避難所にリエゾン(情報伝達役)として派遣されることがあるため、情報伝達の実地訓練が必要 ③大災害時に病院や避難所に派遣される職員が、安全に迅速で効率的な活動をするため、防災物品の更新及び備蓄が必要 ○地域の強靱化のためのソフト対策として、災害時医療救護訓練を実施していく必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	1 令和6年度 災害時医療救護訓練 (1) 訓練目的 関係機関の連携を強化し、災害時における情報伝達能力の向上を図る。 (2) 訓練日時 令和6年9月28日(土)午前8時30分から12時30分 (3) 訓練場所 県立木曽病院、木曽保健福祉事務所 (4) 実施内容 ア.木曽病院の院内総合防災訓練に各行政機関が参加し、木曽病院の動きを確認する。 ・木曽病院の動きについて関係機関で共有することで、各組織の連携体制強化に活かす。 イ.木曽病院の防災訓練に合わせて、保健福祉事務所で初動対応訓練を行う。 ・保健所から木曽病院にリエゾンを派遣し、多様な手段による相互の情報伝達を試す。 (5) 訓練参加者 町村、木曽広域連合、木曽広域消防、木曽保健福祉事務所 2 防災物品の整備 購入が必要な物品 ・ホワイトボードパーティション(リエゾンが現地で情報を整理するために必要) ・防災ヘルメット(所の防災ヘルメットは全て耐用年数(6年)を過ぎているため、更新が必要) ・多機能ラジオ、防災用トイレ、ウエストポーチ(備蓄なし。職員の安全な活動や派遣に必要)					
事業期間	令和6年9月 ～ 令和6年9月						
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額	備考	
	災害時医療救護訓練		訓練に使用する物品及び不足している防災物品の購入		150,000	防災物品の購入等	
	合 計				150,000		
指標及び達成状況	成果指標				目標値	成果	達成状況
	多様な手段を用いた情報伝達(例:衛星携帯、E-MIS、県総合防災情報システム、オクレンジャー、LINEオープンチャット等)				5種類以上	5種類	● 達成
	訓練内容についての理解度(参加者アンケート)				70%以上	80%	○ 一部達成
							○ 未達成
事業実績・成果	【実績】 ・木曽病院の訓練と連携するために打合せを重ね、訓練内容について相互に調整をした。 ・木曽地区災害時医療救護訓練(9/28(土))106名参加(木曽病院職員90名含む) ・町村等担当者7名も参加し、保健所と病院の情報伝達を確認した。(5町村、広域連合、広域消防) 【成果】 ・衛星携帯やLINEオープンチャットなど普段は使わない様々な情報伝達を試すことができ、それぞれの長所・短所が分かった。 ・「防災情報システムにはリエゾンも直接入力した方が良い」など、訓練のおかげで分かったことがあった。 ・町村及び保健所職員の訓練理解度は80%(理解できた33.3%、まあ理解できた46.7%の合計)となり、災害時の木曽病院の動きについて理解を深めることができた。						
今後の方向性	・管内自治体職員の災害医療に関する知識・技量向上を図るため、D-MATや医療救護所等の基礎知識をテーマとした講習会を開催する。 ・今後の災害時の情報伝達に活用するため、訓練で試した様々な情報伝達方法について、それぞれの長所・短所を整理する。						